

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 播種性腫瘍細胞を標的とした革新的ながん治療法の開発

2. 研究代表者： 弓本 佳苗（九州大学 理学研究院 准教授）

3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、がん転移治療を行う上で障害となっている播種性腫瘍細胞(DTC:disseminated tumor cell)を標的とした革新的ながん治療法の確立を目的としている。

フェーズ1では、DTCを標的としたユビキチンリガーゼ(Fbxw7)阻害剤とケモカインレセプター(CCR2)阻害剤の開発に向け、Fbxw7阻害剤のスクリーニングを多面的、精力的に行ったが、最終的な候補化合物の同定には至っていない。一方、CCR2阻害薬、CCR2ノックアウトマウス・ノックインマウスを用い、乳がん転移モデルにおいて転移抑制を示して論文発表した。

フェーズ2では、引き続き、Fbxw7阻害化合物の開発を進め、最終的には3剤併用療法（抗がん剤、Fbxw7、CCR2阻害剤）を目指す挑戦的な計画である。臨床応用に向けては実際の標的や適応疾患等の課題があるため、専門家のアドバイスを受けながら展開していくことを期待する。

以上